

北米視察報告＜3＞

視 察 項 目	海外市議会調査、姉妹都市議会表敬訪問
視 察 日 時	2012年10月23日（火） 午前11時～12時
視 察 先 名	ボルチモア市議会
説 明 者	バーナード シー ヤング議長、外
担 当	大島明 橋本勝 青木功雄

【はじめに】

米国には、約 89,500 もの地方自治体があり、その種類も様々である。ボルチモア市は、本市の姉妹都市であり、数年前にも、本市からの議員視察団を受け入れていただいている。その折には、視察団団員が名誉市民として表彰されており、本視察団の坂本団長以下、数人が名誉市民として再度の訪問となった。

今回の視察では、表敬訪問にとどまらず、ボルチモア市議会の構成、議会運営の方法や問題点を含め、ご教授いただくことを事前に依頼した。これを受けて、ボルチモア市議会では、担当職員に加え、市議会議長や税金・税務・経済発展委員長からも大変熱心なご説明をいただいた。その内容は、市議会議員及び議長の役割など、本市議会と制度的に異なる点を踏まえた、我々が調査を必要とする項目や課題についてであり、1時間と短い時間ではあったが、議論は細部にわたり、視察として高い効果が得られた。

また、ボルチモア市議会側からも、本市議会における議会運営に大変興味を示していただき、多くの質問を受けた。質問は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響や、本市臨海部に存する化学コンビナートの防災等多岐にわたり、議論は大いに盛り上がった。近い将来、ボルチモア市議会も視察団を組んで川崎市を訪れたいという強い要望も寄せられた。

こうした議論に加え、議員間交流を通じて姉妹都市との友好を深めることができたことは、本視察の成果の一つになったことと思う。

【ボルチモア市の概要】

ボルチモア市は、アメリカ合衆国メリーランド州に属し、ニューヨーク市から南西に約 300km、首都ワシントン DC から北東に約 65km に位置し、面積は、238.5 km²。人口 626,664 人、全米で 21 番目の規模の都市である。また、ボルチモア市は、政治上、連邦政府と州政府から郡と同じ扱いを受ける独立都市で、特定の郡に管理されていない都市である。



ボルチモア市議会の正面玄関にて



川崎市、ボルチモア市姉妹都市 15 周年記念兜 （高橋清市長）

【ボルチモア市議会の概要】

1. 市議会構成、議会運営状況

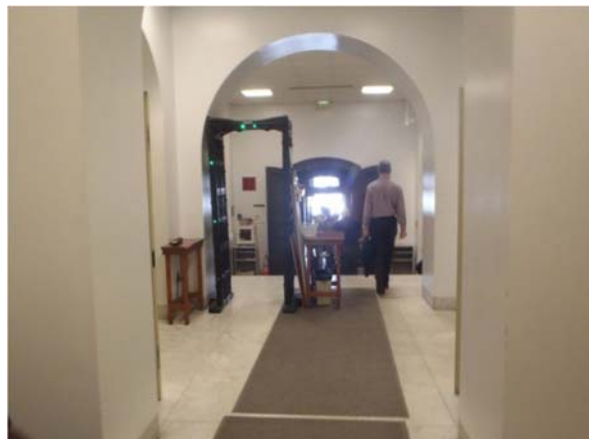
ボルチモア市議会議員は、従前、6区から各3名の計18人の議員が選出されていた。現在は、人口比で14区に分かれており、各区から1名の議員が選出され、いわゆる小選挙区制が採用されている。

ボルチモア市議会の最大の特徴は、議長公選制にある。すなわち、我が国地方自治体の議長は、議員の中から選出されるが、ボルチモア市議会では、議長は市民から直接選挙され、市長も同様の直接選挙により選出されている。

市議会議員数は、議長を含めて15名である。現議長のヤング氏は、元々第12区から選出されていた市議会議員であった。説明によると、議長は、市長に次ぐ市のNo.2のような存在である。

議長は議会全体を監督する。また、議長の権限の一つに、議会の開催権限がある。平成24年の地方自治法改正により、我が国地方自治体の議会にも、長が招集義務を果たさない場合に議長の臨時会招集権が付与されたが、この点に比しても、これは大きな権限である。市長としては、議会の開催を巡って議長と交渉せざる得ないことになる。結果として、市の権限を二分する形になるのが特徴であるとの説明があった。

また、議長には、議員の役職人事権も付与されている。ボルチモア市議会には、12の委員会が存在し、委員会は、予算、教育・青年、役員人事、健康、住宅・地域開発、司法・立法調査、労務、土地利用・運輸、公安、公園、税金・財務・経済発展、都市・高齢者に分かれている。こ



ボルチモア市役所の入口 セキュリティー



ボルチモア市議会議場の入口 セキュリティーにて

の中で、市の財政を担当する予算委員会と税金・財務・経済発展委員会は特に重要な委員会である。議員がどの委員会に配属されるかの人事権は、大きく議長によって決せられる。さらに、委員長人事も議長によることである。議長には投票権はないが、すべての委員会に出席することができる。

余談ではあるが、ヤング議長の後任として、第 12 区から選出されたカール市議会議員は、税金・財務・経済発展委員長の重責を担われているとの説明があった。当日も説明に同席していただき、議会のNo.2としてご活躍されている姿が大変印象深かった。



ヤング議長から説明を受ける視察団

2. 市議会議長、議員の報酬

- ・ 議長：10 万ドル
 専業
- ・ 市議会議員：5.8 万ドル
 兼業

このように、報酬の面からも、議長と議員には大きな違いがうかがえる。



議員席

【制度的特徴】

前述のとおり、ボルチモア市議会議長は公選制を採用している。米国の中でも、議長公選制を採用するのはボルチモア市議会だけであり、これは、市創設時の憲章に謳われている内容を遵守しているとの説明があった。郡議会では、本市同様に、議員の中から議長が選出されるということであり、この点は突出した制度的特徴であると言えよう。議長公選制により、市民は議会の代表を直接選ぶことができ、議長から市長になるケースもしばしばあるそうである。

市長は、条例案を議長に伺い、議長が議会に提案する。議長に採用されなかった場合、市長が議員に依頼して、議員名義で条例案を議会に提案する場合もあるそうである。

市議会議員の選出区は人口比で、ほぼ同数であり、国会議員の投票価値の平等性が問われている我が国の制度に比しても、投票価値の平等性は担保されていると言えよう。

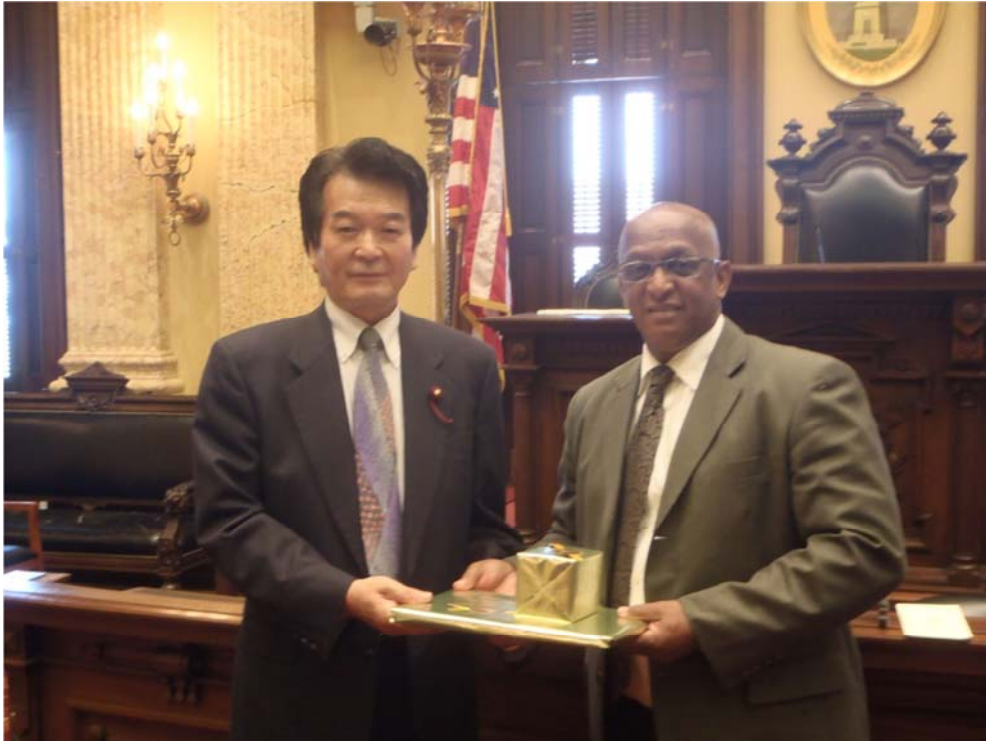
14人の市議会議員の政党は、いずれもデモクラティック（民主党）で、リパブリック（共和党）の議員は1人も存在せず、市長も民主党である。無論、共和党の候補者は存在しており、1964年に一度だけ共和党の議員が存在していたそうであるが、1党により構成された議会は、我が国地方自治体の議会では余り見られないケースである。これは、小選挙区制を採用していることが要因と考えられる。



傍聴席

市長と議長の任期は4年で、同時期に選挙が実施される。前回の議長選挙では5人の候補者が立候補した。

米国では、女性議員の数の方が多いことも特徴の一つである。



ヤング議長と坂本視察団団長



ヤング議長と視察団員

【質疑応答】

Q 1 : 不動産開発委員会メンバーは。

A 1 : 市長、弁護士、公共事業責任者、議長、経理責任者。市長が3票もっている。議長がすべてをコントロールできないが、日程や議案の提案についてはコントロールできる。



質疑にお答えのヤング議長

Q 2 : 市長は議会に出席するか。

A 2 : 通常出席しない。2月に年頭教書を演説する際には出席する。昔は、市長が議長の席にあったが、今は議長が議長の席にある。

Q 3 : それでは、市長が議員と議論する方法は。

A 3 : 予算編成の委員会では議論する。あるいは、8人の議員を選んで、直接話をする事ができる。

Q 4 : 議長は元々何をしておられたか。

A 4 : ジョーンズ・ホプキンス大学で30年間働いていた。それ以前は、靴磨きや新聞配達もした。市の事情は熟知している。教会の役員もしていた。

Q 5 : 議長や議員に期数制限はあるか。

A 5 : 期数制限はない。

Q 6 : 改めて、議長の直接選挙のメリットを伺いたい。

A 6 : 市長に不測の事態が生じた場合には、議長が市長の残任期、市長の代わりを務める。その間、市議会議員から議長を選ぶことになる。昔、そういうケースがあったが、市長の代理を市民が直接選出することができるのがメリットといえる。

Q 7 : 議長選挙では、民主党以外に共和党からの候補者はいるか。

A 7 : 当然、共和党の候補者もいるが、ここは、民主党の市である。もし、私が、民主党から共和党に変えたら、私は選ばれないことになるだろう。

Q 8 : 議長は市長になりたいか。

A 8 : はい、先ずは議長を務まるか確信を得たかった。いつか市長になりたい。

Q 9 : 川崎市は南北に細長く、北部は緑が多く残り、中部は住宅地、南部は臨海地区という大きく3つの顔がある。自治体として一つの方向性を見出す際に、それぞれの区域から選出された議員により、考え方の違いが見られる。14の選挙区があるボルチモア市は、どのような状況にあるか。

A 9 : ボルチモア市にも同様の問題がある。

Q10 : 議会ニュースについて教授いただきたい。

A10 : 議会ニュースは毎週発行している。ニュースは、E-MAILで送付しており、公費で発行している。

【統 括】

ボルチモア市の市議会議員選挙は、各選挙区から1名の議員が選出される制度を採用する。結果として、前述のとおり、市議会議員全員が、民主党に偏重している。公正な選挙が担保されていることにより、1党独裁とは言えないが、議会に1党しか存在しないことは、議会の硬直化を招く要因になるのではないかと考察する。我が国衆議院においても、小選挙区制の弊害が議論されるようになってきているが、小選挙区制の問題点を改めて認識させられた。

今後、本市議会においてさらなる議員定数削減を実施する場合、こうした現象が起こらないとも限らない。今回の視察では、共和党を応援している市民から直接話を聞くこと、また共和党から立候補した方と話すことがなかったのが残念であるが、今後の機会を捉えてさらに調査研究するに値すると考える。

また、我々が、ボルチモア市議会に訪問するまでに、建物入口では、身分証明書提示から始まり、赤外線による身体検査のセキュリティーチェックなど、防犯体制が大変厳重だった。

本市議会にも、守衛がおり安全管理を実施しているが、身分証明書の提示や身体検査までは行っていない。米国のように、拳銃所持を許容する社会とは自ずから体制に差が生じることはあるにせよ、昨今の治安状況の悪化を考えると議員の各部屋へのセキュリティーについても、再考の余地はあろう。

米国及びボルチモア市を取り巻く歴史と文化を背景としたボルチモア市議会の制度や体制を調査できた今回の訪問は、本視察団にとっても、参考にすべき点が多数あった。

報告書の終わりにあたり、熱心にご説明いただいたヤング議長はじめボルチモア市議会の皆様には、深く感謝申し上げたい。